

目次・ハザードマップの活用方法について	1	利根川(浸水想定区域図)	24
5段階の警戒レベル	2	地震対策	25
避難行動判定フロー	3	揺れやすさマップ	26
マイ・タイムライン	4	地震危険度マップ	27
災害時の情報伝達	5	液状化可能性図・焼失棟数予測結果図	28
ハザードマップの見方	6	風水害対策	29・30
避難所一覧	7	火災・竜巻・雷対策	31
要配慮者施設一覧・全体索引図	8	感染症対策	32
大落古利根川・中川流域(浸水想定区域図)詳細図	9~22	わが家の安全対策	33
荒川(浸水想定区域図)	23	非常時持出品・備蓄品	34

※使用ピクトグラム… [JIS Z8210「洪水/内水氾濫」][大規模な火災][鉄道/鉄道駅]

【本書の特徴】

本書は、いつ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。

予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、内容に目を通し、理解を深めていきましょう。また、本書の特徴として、災害時に持ち運びができるように冊子型としています。身近に置いて、緊急時に持ち出してご活用ください。

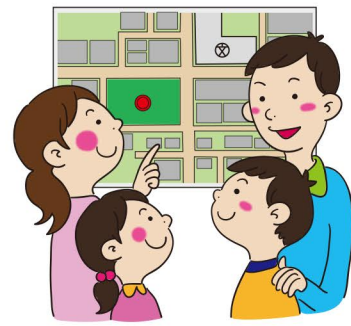
ハザードマップの活用方法について

①住んでいる場所と予想される浸水の深さを地図上で確認しましょう！

このハザードマップには、予想される浸水の範囲と深さがランク別に色分けされています。自分の住んでいる場所は浸水の危険があるのか、予想される浸水の深さはどれくらいになるのかを確認しましょう。ただし、予想される浸水は、このとおりにはならないことがあります。

②避難場所を確認しましょう！

このハザードマップ 7 ページの避難所一覧で、避難所がどこかを確認しましょう。そして、地図上でその避難所がどこにあるのか、場所の確認をしましょう。



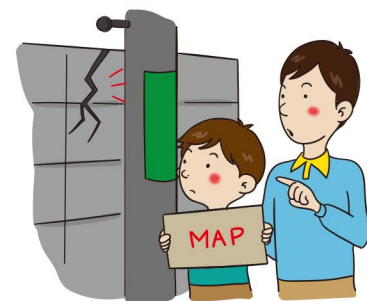
③避難経路を考えてみましょう！

このハザードマップで自分が住んでいる場所から避難所まで、どの道を通れば安全に避難することができるか、避難経路を地図上で確認しましょう。

地図上での確認が済んだら、実際に避難所まで歩いてみましょう。安全で歩きやすい道を選び、避難所までの経路を確認して、所要時間も計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大勢での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④家族や周辺住民と情報を共有しましょう！

このハザードマップは、家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと、どこの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。



警戒レベル

避難情報等(警戒レベル)		
警戒レベル状況	住民がとるべき行動	避難情報等
<b>5</b> 災害発生 または切迫	<b>命の危険 直ちに 安全確保!</b>	緊急 安全確保 ※1
<b>警戒レベル4までに必ず避難!</b>		
<b>4</b> 災害の おそれ高い	<b>危険な場所 から全員避難</b>	避難指示 ※2
<b>3</b> 災害の おそれあり	<b>危険な場所から 高齢者等は避難</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●避難に時間のかかる要配慮者(高齢者・障がい者・乳幼児等)とその支援者は避難</li> <li>●高齢者等以外の人も危険を感じたら自主的に避難</li> </ul>	高齢者等 避難 ※3
<b>2</b> 気象状況 悪化	<b>自らの避難 行動を確認</b>	大雨注意報 洪水注意報
<b>1</b> 今後気象状況 悪化のおそれ	<b>災害への心構えを 高めましょう</b>	早期注意情報

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。  
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。  
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。**警戒レベル5 緊急安全確保の発令を待ってはいけません!**

避難勧告は廃止されました。これからは、**警戒レベル4 避難指示**で危険な場所から全員避難しましょう。

避難に時間のかかる高齢者や障がいのある人は、**警戒レベル3 高齢者等避難**で危険な場所から避難しましょう。